

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.60

成田市立図書館だより 第60号 2005年(平成17年)12月1日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3

☎ 0476-27-4646

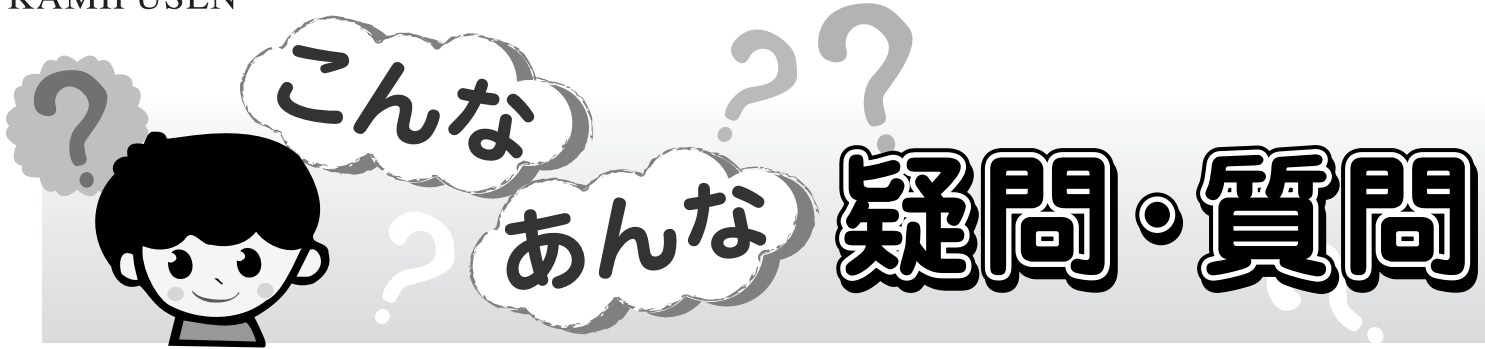
FAX 0476-27-4641

<http://www.library.narita.chiba.jp>



新しい本が、たくさん！

三里塚コミュニティセンター内 図書コーナー



図書館では、様々なご質問をお受けし、調べもののお手伝いをしています。「自分で探そうとしたが、思うようにいなくて、どうすればよいか」そういう時には、どうぞ、1階カウンター「本の相談コーナー」や、2階参考資料室カウンターにお声をかけて下さい。図書館は、読むための本だけではなく、調べることを目的として編集された資料も多数所蔵しています。今回、ご紹介した事例は、利用者からお受けした、質問を元に選定しました。

(紙面でご紹介した資料は、一部を除いて、本館2階参考資料室内でのご利用となります)

Q. 「成田」という地名の由来を知りたい

A. 『成田市史 民俗編』(成田市 1982年)のP.9~に“地名の由来”としてまとめてあります。それによれば、地名の由来には従来から2つの説があり、①この地方は昔から雷鳴が多いので、雷の鳴る田の意から鳴田(ナルタ)といていたものが、成田に転じたというものと、②稲の出来が良い土なので熟田(ナリタ)とつけたというものです。しかし、この項目の著者は、この2説よりも、田を開発した、田に成るから、または生業(なりわい、業=生活の基盤)の田、業田(ナリタ)のことと考えたいと記しています。

他の資料としては、『成田の地名(成田市の文化財 第19集)』(成田市 1988年)や、『角川日本地名大辞典12千葉県』(角川書店 1984年)にも記述があります。(S)



Q. 成田山新勝寺の表参道(門前町)の歴史を調べたい

A. この質問は、小学5年生からのものでした。小学生にもわかる資料ということで、まず『図説 成田の歴史』(成田市、1995年)を提供しました。この資料のP.122~に江戸時代の門前町の形成について、P.176~に明治以降、特に大正時代の門前町の繁栄について解説しています。他の資料では、『成田みち今昔』(森田保/編著 崙書房 1983年)にも成田山門前通りの記述があります。

また『NHK 関東甲信越 小さな旅 8(歴史と文学のふるさと)』(学陽書房 1987年)のP.127以降に“成田山参道物語”として、参道の様子と成田山の簡単な歴史が紀行文風に紹介されていました。『成田 寺と町まちの歴史』(小倉博/著 聚海書林 1988年)にもかなり詳しく記述されています。(I)



にお答えします



Q. 成田空港が開港した時の、一番機を知りたい

- A. 昭和53年（1978年）5月20日、新東京国際空港が開港し、翌21日午前が一番機として、ロサンゼルス発の日本航空貨物便を迎えています。同日、午後、旅客一番機として、フランクフルト発の日航機が到着。成田出発の一番機は、22日午前、大韓航空機がソウルに向けて飛び立ちました。その当時の様子はもちろん、開港前史についても、『新東京国際空港公団20年のあゆみ』（新東京国際空港公団 1987年）に、写真と共に記録されています。また、どのように報道されたかは、新聞の元の大きさの約4分の1に縮小した縮刷版や、新聞を縮小撮影したマイクロフィルムなどでご覧いただけます。（H）

△ 通称、成田空港は、2004年4月に正式名称を「新東京国際空港」から「成田国際空港」に変更しています。

Q. 大阪万博が開催された年の夏、房総の海がとても冷たかったと記憶している。その時の状況を知りたい

- A. 『千葉県の自然誌 本編3 千葉県の気候・気象』（千葉県 1999年）には、古代から1995年までの、千葉県に関する気象災害が、巻末に年表としてまとめられています。この事例では、1970年7月に海水温の異常として「内陸部では、30℃を越す夏日が続いたが、房総沖には冷水塊があり、勝浦では、19日22.6℃あった水温が、20日には、17.9℃と5℃も低くなり、26日まで続いた」と、取上げられていました。『千葉県気象災害史（第2集）昭和44年～昭和60年』（日本気象協会 1987年）には、更に詳しく、水温表や地上天気図の記録がありました。また、『千葉県気象年報』（日本気象協会銚子支部 1970年）にも、異常気象として記載されていました。（N）

Q. 成田の明治前半頃の地図はないか

- A. 参考資料室では、国土地理院発行の地図の中で、関東（一部甲信越）地方の2万5千分の1地形図と全国の5万分の1地形図を見ることができます。また、成田市と周辺地域の地形図は過去のものもあります。成田市の地形図で一番古いものは、2万5千分の1が大正14年、5万分の1が明治42年になります。質問では「明治前半」と指定がありましたので、他の資料を探してみたところ、『明治前期関東平野地誌図集成』（柏書房 1989年）がありました。これは、この時期に作成された迅速図と呼ばれるものを2万5千分の1に再編集したもののようで、この資料のコピーを提供しました。

なお、地図は著作権法により1枚（冊子体のものならば、概ね見開きの）半分までしかコピーできません。（T）

三里塚分館オープン

今年7月1日に三里塚地区にオープンした「成田市三里塚コミュニティセンター」内に、成田市立図書館・三里塚分館が誕生しました。（表紙写真）

1階のオープンスペースの一画に、およそ1万冊の蔵書を確保できる書架を設置し、誰もが気軽に親しめる‘図書コーナー’をめざし、資料の収集・整理に努めています。多くの皆様のご利用をお待ちしています。

（図書コーナー利用時間 10：00～17：00）

三里塚コミュニティセンター 住所 三里塚2番地 電話番号 0476-40-4880



赤ちゃんも絵本が大好き Part 8

「くっついた」 三浦太郎／作・絵 こぐま社

きんぎょさんと きんぎょさんが・・・ページをめくるとくっついた。あひるさんと あひるさんが・・・くっついた。くっつくだけで ちょっとほんわか いいきもち。最後はあかちゃんをはさんで おかあさんとおとうさんのほっぺがくっついて、みんなにっこり。やわらかい色合いのかわいい絵が印象的です。ぜひあかちゃんと一緒に読んで、遊んでください。絵本作家の著者が、0歳の我が子との触れ合いの中から作り出したという、すてきな1冊です。



「まるくておいしいよ」 こにしえいこ／さく 福音館書店

これなあに？ ページをめくると まるくておいしいものがつきつきに出てきます。ケーキにビスケット、のりまき、オレンジ、どうぞ一緒に召し上がれ。



編集後記

三里塚コミュニティセンター（三里塚分館）が2005年7月1日にオープンし、館内の図書コーナーも賑わっています。親子で、子ども同士で、そして若い恋人たちなどが談笑しつつ、本を読む姿は微笑ましいものです。身近な場所で、本とふれあう機会が増えているのかもしれませんが。私たちは、そんな読書の芽を大切に、図書コーナーが皆さんにとって憩いの場となることを願っております。本を通して楽しい時間をご提供できるよう、努力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

成田市立図書館だより
発行 成田市
編集 成田市立図書館
〒286-0017 成田市赤坂1-1-3
☎0476-27-4646
発行日 2005.12.1
登録番号 成教図05-026